

ジャパン ハンドドリップ チャンピオンシップ 2020

JAPAN HAND DRIP CHAMPIONSHIP 2020

ルール規約



日本スペシャルティコーヒー協会
コーヒーブリューワーズ委員会作成
2020年1月29日更新

目次

0.0 JHDCとは	4
1.0 参加条件	4
1.1 参加者	4
1.2 申込み	4
1.3 競技者からの質問	4
1.4 規約	4
2.0 大会ルール	5
2.1 予選(ドリップ競技)	5
2.2 決勝	8
3.0 大会の流れ	10
3.1 競技エリア概要	11
4.0 機器、器具、アクセサリ類	13
4.1 提供される設備品、供給品	13
4.2 持参することを推奨する設備品及び供給品(決勝フリー競技)	13
5.0 競技者が競技時間の前にすべきこと	14
5.1 競技者オリエンテーションミーティング	14
5.2 リハーサル(決勝フリー競技)	14
5.3 時間の遵守	14
5.4 サポーター/アシスタント	14
5.5 ステージ上に運ぶ備品・供給品	14
5.6 決勝(フリー競技)競技時の音楽	14
6.0 競技時間	15
6.1 司会からの紹介	15
6.2 準備時間(決勝フリー競技のみ)	15
6.3 競技時間の開始	15
6.4 タイムオーバーによるペナルティ(減点)	16
6.5 コーチについて	16
7.0 技術的な問題について	16
7.1 概要	16
7.2 妨害行為について	16
7.3 決勝(フリー競技)でアクセサリを忘れた場合	17
8.0 片付時間	17
9.0 競技終了後	17
9.1 競技記録の保管について	17
9.2 デブリーフィング(報告会)	18
10.0 競技者からの異議申し立てと嘆願要請	18
10.1 競技者に関係する問題	18
10.2 スコアシートの見直しに際して提起される審査員/審査に関する問題について	18
11.0 JHDC 公認ジャッジ	19

11.1 ジャッジとしての準備	19
11.2 JHDC 公認ジャッジとしての目標と目的	19
12.0 ジャッジの役割.....	20
12.1 ヘッドジャッジ(決勝フリー競技)	20
12.2 センサリージャッジ	20
13.0 評価項目	20
13.1 予選・決勝(ドリップ競技)の味覚評価	20
13.2 決勝(フリー競技)のドリップコーヒーの評価、及びサービス力全般評価	20
13.3 決勝(フリー競技)の飲料のプレゼンテーション	20
13.4 決勝(フリー競技)の総合的な印象	20
13.5 評価基準(尺度)	21
14.0 審査前のジャッジの禁止行為	21
14.1 競技大会中のジャッジの振る舞い	21
14.2 味覚審査時	21
14.3 センサリージャッジに望むこと	21
14.4 スコアシート記入の際の注意事項	22
15.0 JHDC ジャッジによる不誠実な姿勢について	22
15.1 概要	22
15.2 嘆願要請	22
16.0 連絡先.....	22
16.1 SCAJ 事務局	22
16.2 競技会事務局	22

0.0 JHDC とは

「ジャパン ハンドドリップ チャンピオンシップ」(以下、JHDC)は、コーヒー専門店から各家庭まで、日本で最も親しまれている抽出方法「ハンドドリップ」に特化した競技会です。シンプルなルールでありながら、競技を勝ち抜くためにはコーヒーとハンドドリップ抽出に関する多角的な知識と技術と経験が求められます。本競技会では、各地区予選を通じて幅広い層からの参加を募り、多くの方々が「美味しいハンドドリップコーヒー」を淹れるための検証と工夫に取り組んでくれることを願っています。

本競技会を通じ、より多くの人々にコーヒーを「手で淹れる」ことの魅力を伝え、日本の「ハンドドリップコーヒー」の素晴らしさを世界に向けて発信していきたい、そんな願いを込めた競技会です。

1.0 参加条件

1.1 参加者

1.1.1 年齢

大会参加時点で 16 歳以上であること。ただし、18 歳未満の参加者は SCAJ ホームページに指定された期限までに誓約書を提出してください。

1.1.2 国籍

国籍不問。但し、日本語を理解できる方。

1.1.3 費用

競技者は JHDC への出場に際し、開催期間中の競技者自身のすべての費用に関し責任をもつものとします。すべての費用とは、競技者の渡航費用、宿泊費用、追加の旅費、大会での提供品、原材料、輸送・運送費及びコーチやサポートメンバーの費用等を含みます。JHDC は、競技者のいかなる費用も負担しないものとします。

1.1.4 同一企業参加者数制限

1社から参加できる人数は、全日程 5 名を上限とし、1ブロック(最大 16 名)につき 1 名までとします。

1.2 申込み

1.2.1 競技者登録フォーム

競技者は参加登録フォームの必要事項をすべて記入の上、SCAJ ホームページより申込みをしてください。

1.2.2 申込期限

SCAJ ホームページに記載された申込期限を参照してください。

1.3 競技者からの質問

すべての競技者は、最新の JHDC ルール規約及びスコアシートの内容を十分に理解しておかなければなりません。JHDC ルール規約及びスコアシートの理解不足に基づく異議申し立てに対し、例外措置をとったり便宜をはかったりすることはありません。すべての JHDC 関連書類は、SCAJ ホームページからダウンロードできます。質問がある場合は JHDC の開催前までに競技会事務局へメールでお問い合わせください。

1.4 規約

競技者は下記の規約をよく理解し承認した上で、競技者登録フォームを送信及び提出してください。

注意: 本規約には、すべての競技者に課される責任、及び SCAJ を代表する者として JHDC 優勝者に求められる責任に関する記述が含まれています。参加年度の JHDC 大会開催日から翌年開催日までを期限とし、本規約が効力を持つものとします。

- A. 競技者は以下のことを約束し、エントリーを行なってください。
 - I. JHDC 及び SCAJ が、プロモーション、セミナー活動に際して、競技者の氏名、画像、動画を使用することを許可すること。
 - II. 上記の使用に際して、写真、ビデオ、印刷物、インターネット、その他のいかなる電子メディアを含め、いかなる請求もしないこと。
 - III. JHDC 及び SCAJ の行なう啓蒙活動を維持促進するために積極的に活動すること。
- B. 競技者は、本ルール規約に定める競技者行動規範をよく読み、また遵守すること。
- C. JHDC 優勝者は、日本スペシャルティコーヒー協会 (SCAJ) を代表する者としての自覚を持ち行動すること。

2.0 大会ルール

- A. 本競技会での使用言語は日本語とします。
- B. 競技会は 2 種類の競技(ドリップ競技・フリー競技)で構成され、それぞれの競技内容に従いコーヒーを抽出します。予選はドリップ競技のみで、決勝はドリップ競技とフリー競技を組み合わせて行なわれます。
- C. 競技者オリエンテーションミーティングで行なわれる説明は、本ルール規約の内容と同等に扱われるものとします。
- D. 本ルール規約において、「禁止されている行為」や「〇〇してはならない」、「〇〇してください」という内容に違反した場合、減点もしくは失格となります。

2.1 予選(ドリップ競技)

2.1.1 競技概要

- A. 予選はドリップ競技のみで行なわれ、各日毎のトーナメント方式で行なわれます(下図参照)。
 - 4 名までを 1 グループ、4 グループまでを 1 ブロック(最大 16 名)としてトーナメントを行ないます(各予選日につき最大 2 ブロックのトーナメントを実施)。各グループ 1 回戦の上位 1 名が勝ち進み、最大 4 名によるブロック決勝戦を行ないません。ただし、予選会場の都合により、トーナメント構成を変更し最大 3 回戦まで行なわれる場合があります。
- B. ブロック決勝戦の上位 1 名が後日行なわれる決勝大会へ進出します。
- C. 予選(ドリップ競技)の競技時間は 8 分です。ただし、1 回戦の競技時間前に、各グループ毎に 17 分のリハーサル時間が与えられます。(ブロック決勝ではリハーサルは行ないません。)
- D. 予選(ドリップ競技)では 8 分間の競技時間に、JHDC が提供するコーヒー豆を使用し、2 つのサーバーに量の異なる 2 回の個別の抽出を行ないます。
- E. 量の異なる 2 回の個別の抽出は、1 つを 150ml 以上 200ml 以下(抽出 A)で、1 つを 300ml 以上 400ml 以下(抽出 B)で抽出を行なうことです。
- F. 2 人のセンサリージャッジが、競技エリアから視界の遮断された審査エリアで審査を行ないます。競技者は、2 つの抽出の均一性(質)と、抽出 B のコーヒーの味覚審査により評価されます。
- G. テクニカルジャッジが、抽出量の確認、衛生的かつ適切な器具の使用をしているか審査します。競技スペースの整理整頓ができているかどうかを確認します。また、抽出されたコーヒーの温度計測も行ないます(60°C未満減点)

2.1.2 コーヒー豆と使用器具等

- A. 予選では、JHDC が大会当日に提供するシングルオリジンのコーヒー豆を使用します。提供されるコーヒー豆は各予選日により異なります。
- B. 競技に使用するコーヒー豆は、大会当日のオリエンテーションにおいて発表します。コーヒー豆のプロフィール(オリジン、焙煎度など)も同時に公表します。競技者は実際にコーヒー豆を確認することができます。
- C. コーヒー豆はリハーサル用、競技用として 250g 支給されます。競技終了時にすべて回収されます。また、抽出時のコーヒ

一豆の使用量は任意とし、挽き方も任意とします。ただし豆の追加支給は行ないません。

- D. 抽出器具(ドリッパー、ペーパー): JHDC 公認指定製品として大会が用意する複数の器具の中から選択できます(ドリッパーは1競技者につき2つまで、ペーパーは適宜)。競技者が持参した抽出器具を使用することはできません。なお、公式指定製品として大会が提供する抽出器具に改造等の加工を行なうことは一切禁止します。
※公認指定製品: JHDC 公式スポンサーから提供される製品を指します。公認指定製品の詳細に関しては、SCAJ ホームページで公開される最新情報を参照してください。
- E. サーバー: JHDC が用意する公認指定製品を使用します。競技者が持参したサーバーを使用することはできません。サーバーをIHヒーター等で加温することはできません。抽出後(サーバーからドリッパーを外した後)はサーバーには移動や、抽出液の攪拌目的以外で手を触れてはいけません。また、抽出後のサーバーには保温目的のいかなる行為も禁止します。なお、すべてのサーバーは競技前に計測され同じ重さに調整されたものが使用されます。
- F. グライNDER: JHDC が用意する公認指定製品の中から1台を選択することができます。(複数台用意しますが、どのグラインダーを使用するか競技者が選択することはできません)
- G. ドリップポット: プラチナスポンサー提供のドリップポットを競技者につき1つ競技テーブルに設置します。それ以外に JHDC が用意する公認指定製品の中から1つを選択して使用することができます。競技者が持参したドリップポットを使用することはできません。
- H. 温度計: JHDC が用意する温度計を使用します。ドリップポット内のお湯の温度を計ることができます。
- I. 水: JHDC が用意する水を使用します。持参した水を使用することはできません。ドリップポット内の湯温を下げるために水を入れる場合は指定の水差し用ポットから注いでください。
- J. デジタルスケール: JHDC が用意するスケール(競技者につき2つ)を使用します。競技者が持参したスケールを使用することはできません。
- K. 攪拌用スプーン: JHDC が用意する攪拌用スプーンを使用します。ドリップポット内のお湯の攪拌、ドリッパー内のコーヒーの攪拌、抽出後のサーバー内のコーヒー液の攪拌に使用できます。
- L. 競技者は JHDC から提供される器具一式(ドリッパー、ペーパー、ドリップポット、グラインダー)について、必ず指定された期限までに各自の責任で申告してください。申請をしない場合は、希望の器具が使用できない可能性もあります。
- M. 競技テーブルには IH ヒーターを設置します。IH ヒーター上にはドリップポット以外の器具等を置くことはできません。また、IH ヒーターを移動させたり、競技テーブルから外したりすることもできません。
- N. パウダーコントロールストッカー: JHDC が用意する公認指定製品の中から選択できます(1つまで)。競技者が持参したパウダーコントロールストッカーを使用することはできません。
- O. その他の機器、器具、アクセサリーについては、4.0の項を参照してください。
- P. 競技エリア内に競技者が持参した器具等を持ち込むことは一切できません。

2.1.3 競技時間と競技の流れ

- A. 予選1回戦では、リハーサルに引き続き競技を行ないません。リハーサル時間は17分、競技時間は8分です。
- B. 司会者はすべての競技者がステーションについていることを確認した後、スタートの合図をします。競技者はスタートの合図の後、一斉にリハーサルを開始します。
- C. 競技者はリハーサル開始前にドリッパーなどの貸し出し器具の準備をし、ドリップポット1つにお湯を入れます。リハーサル開始前にペーパーを折ったり、ペーパーをドリッパーにセットしたり、2つ以上のポットにお湯を入れてはいけません。
- D. 競技者はリハーサル時間内に自由に試し抽出、味見をすることができます。(抽出液を競技エリア外に持ち出すことはできません)
- E. **競技者はリハーサル終了の時点までに、各自の競技テーブル上のすべてのコーヒー抽出液を指定された場所に廃棄しなければなりません。**
- F. 競技者はリハーサル時間内に、**抽出以外のすべての競技の準備を行なうことができます。**
- G. リハーサル終了時点で違反があった場合、10点の減点が課せられます。
- H. 司会者はすべての競技者の準備が整ったことを確認した後、スタートの合図をします。競技者はスタートの合図の後、一

齊に競技を開始します。

- I. 競技者は採点用に、2つのサーバーにそれぞれ、量の異なる2回の個別の抽出を行いません。1つは150ml以上200ml以下(抽出A)、1つは300ml以上400ml以下(抽出B)の抽出とします。使用する豆の量は任意です。
- J. 2回の抽出を同時に行なうか、順次行なうかは競技者に委ねられます。1つのサーバーに2回以上の抽出を行なったり、1回の抽出を2つのサーバーに注ぎ分けたりすることはできません。抽出後のサーバー内にお湯を注ぐことはできません。また量の調整のために、一度抽出したコーヒーの一部を廃棄することもできません。1回の抽出の最中にドリッパー内の粉を増減させてもいけません。これらの行為が行なわれた場合は失格となります。ドリッパーからの最初の滴下は必ずサーバーに入れる必要があります(その際サーバーにお湯や水が残っていた場合は失格となります)。その後、抽出液がサーバー以外の場所に滴下した時点で一回の抽出の終了と見なします。
- K. JHDCが用意する水、攪拌用スプーン以外のものを、抽出時に粉に接触させた場合は失格となります。
- L. すべての抽出が終了したら、競技者は自身で提供台に2つのサーバーを選びます。2つのサーバーを提供台に置いた時点で競技終了とします。競技時間8分を超えた場合は20点の減点が課せられます。競技時間が9分を超えた時点で失格となります。
- M. 大会スタッフは競技者が提供台に置いたサーバー内のコーヒーの温度を速やかに計測します。60度未満の場合、サーバー1つにつき20点の減点が課せられます。
- N. 大会スタッフが2つのサーバーの計量を行ない、それぞれの抽出量が規定の量に満たない、または規定の量を超えている場合、サーバー1つにつき20点の減点が課せられます。
- O. 大会スタッフは計量後、2つのサーバーから識別用番号が付されたカップにコーヒーを注ぎ分け、速やかにセンサリージャッジに提供します。各ジャッジにそれぞれのサーバーから注ぎ分けられた2種類のカップが提供されます。抽出Aは赤い番号のカップ、抽出Bは黒い番号のカップを使用します。(番号は同一)
- P. センサリージャッジは、抽出A及び抽出Bの均一性と、抽出Bのカップの味覚の評価を行いません。味覚の評価項目は次の7つです。・クリーンカップ ・フレーバー ・ボリューム ・多様性の理解 ・特徴 ・バランス ・総合
- Q. ブロックのすべてのグループの予選1回戦が終了した後、各グループの上位1名によりブロック決勝戦を行いません。リハーサルは行いません。競技時間は8分です。(準備時間はありません)。
- R. 競技内容は予選1回戦と同じです。競技の流れは上記H~Pに準じます。
- S. 競技者につき1名までサポーターを登録することができます。ただし、サポーターの競技エリアへの立ち入りはできません。なお、競技者及び審査員プログラムの受講者をサポーターとして登録することは禁止とします。
- T. 競技者が観客席等からのサイン、指示を受け禁止事項、減点事項を回避できた場合でも、イベントマネージャーやテクニカルジャッジ、タイムキーパーにより発見された場合は失格となります。(例えばサーバーを洗うよう指示されたりした場合)
- U. ドリッパーを手に持って抽出を行なうことはできますが、抽出されたコーヒー液がすべてサーバー内に落ちるような位置で抽出してください。もしドリッパーをサーバー上から横に外し、抽出液がテーブル等に垂れた状態で再度抽出を開始した場合は、J項目での一部の抽出液の廃棄とみなし失格となります。
- V. 予選1回戦及びブロック決勝では競技終了後、自身で抽出したコーヒーを、確認のために試飲することができます。大会スタッフは各競技者の前に2つのカップが置きます。赤い番号のカップは抽出A、黒い番号のカップは抽出Bです。
- W. また、競技終了後、自身の抽出した2つのカップの他に、抽出Bのサーバーが各競技者の前に置かれます。これは同じグループの他の競技者が試飲するために用意するものです。自身の抽出したコーヒーを飲んだ後は、他の競技者の抽出Bのコーヒーも積極的に試飲してください。

2.2 決勝

2.2.1 競技概要(ドリップ競技・フリー競技)

- A. 決勝はドリップ競技とフリー競技の2つの競技で構成されます。ドリップ競技とフリー競技は別々のステーションで行なわれます。
- B. ドリップ競技は、競技者につき17分のリハーサル時間と8分の競技時間が与えられます。(競技は数名ずつのグループで行なわれますが、トーナメント方式ではありません。)
- C. ドリップ競技の概要は予選と同じです(2.1参照)。
- D. フリー競技は、競技者につき5分の準備時間と10分の競技時間が与えられます。
- E. フリー競技では、JHDCが提供するシングルオリジンのコーヒー豆を使用し、プレゼンテーションを伴うコーヒー抽出を行います。競技者は、2つのサーバーに量の異なる2回の個別の抽出を行ない、3名のジャッジに各サーバーから1杯ずつ、計6杯のカップを提供します。
- E. 量の異なる2回の個別の抽出とは、1つを150ml以上200ml以下で、1つを300ml以上400ml以下で抽出を行なうことです。
- F. 提供するコーヒーは、コーヒー豆と抽出用水以外のいかなる原料も添加しないドリップコーヒーとし、温度は60度以上のホットコーヒーに限られます。
- G. 競技者は、3名のジャッジ、1名のテクニカルジャッジ、1名のヘッドジャッジにより、プレゼンテーション内容・味覚・サービス技術を評価されます。2つの抽出の味覚の均一性が評価の対象に含まれます。
- H. ドリップ競技とフリー競技の得点を合算して、総合得点により順位を決定します。

2.2.2 コーヒー豆と使用器具等(フリー競技)

- A. ドリップ競技で使用するコーヒー豆と器具に関する規定は予選と同じです(2.1参照)。
- B. フリー競技では、JHDCが提供するシングルオリジンのコーヒー豆を使用します。
- C. JHDCは大会のおよそ1ヶ月前までに、フリー競技で使用するコーヒー豆を、練習用として各競技者に1kgずつ事前配布します。この時、コーヒー豆のプロフィール(オリジン、焙煎度など)も公表します。リハーサル及び決勝のフリー競技で実際に使用する豆は、別途、当日に配布されます。コーヒー豆、焙煎度、焙煎からの日数などは練習用の豆とほぼ同じになるよう準備されます。練習用として配布したコーヒー豆を競技に使用することはできません。また、大会スケジュールの関係で豆の配布が1ヶ月未満となる場合もあります。
- D. 抽出器具(ドリッパー、ペーパー): JHDC公認指定製品として大会が用意する複数の器具から選択することができます。競技者が持参した抽出器具を使用することはできません。使用できるドリッパーは各競技者につき2つまでです。また、公式指定製品として大会が提供する抽出器具に改造等の加工を行なうことはできません。なお、ドリップ競技とフリー競技で異なるドリッパーを選択することも可能です。
- E. サーバー: JHDCが用意する公認指定製品を使用します。競技者が持参したサーバーを使用することはできません。サーバーをIHヒーター等で加温することはできません。抽出後のサーバーには保温目的のいかなる行為も禁止します。準備時間中にサーバーを湯煎することが可能です(そのまま競技に入れます。お湯の廃棄の必要はありません) なお、抽出量(A,B)に応じたサーバーを用意します(容量目安のライン入り)。A、B逆に使用した場合、両サーバーとも抽出量の減点対象となります。
- F. グライNDER: JHDCが用意する公認指定製品の中から1台を選択することができます。競技者が持参したグラインダーを使用することはできません。
- G. ドリップポット: プラチナスポンサー提供のドリップポットを競技者につき1つ競技テーブルに設置します。それ以外にJHDCが用意する公認指定製品の中から1つを選択して使用することができます。競技者が持参したドリップポットを使用することはできません。
- H. パウダーコントロールストッカー: JHDCが用意する公認指定製品の中から選択できます(1つまで)。競技者が持参したパウダーコントロールストッカーを使用することはできません。

- I. 提供容器: 競技者は提供用の容器(カップ、グラス、ソーサー等)を自身で用意してください。提供容器の形状、材質に制限はありませんが、6つのカップは同じ形状でなければなりません。ただし、味覚の評価対象となるカップ(抽出B)ともう一方のカップ(抽出A)を識別できるようにしてください(色違い、模様違いのものを使用する、もしくはわかりやすい印をつけるなど)。識別はカップ単体で分かるようにする必要があります。トレイやソーサーで違いを出すだけでは不十分です(審査員室に持ち帰るのはカップのみです)。
- J. 水: JHDCが用意する水を使用します。持参した水を使用することはできません。なお、ジャッジにお水を提供する場合は、各自でグラス、お水を注ぐ容器(ウォーターポット等)を用意してください。容器に水を入れる場合は、マシンテーブルに用意されているお水を使用してください。
- K. プレゼンテーションに必要なアクセサリ類を任意に競技エリアに持ち込むことができます。ただし、コーヒー豆と抽出用水以外、いかなる食品及び食品添加物も持ち込むことはできません。
- L. 電気を使用する器具等は持ち込みができません。

2.2.3 競技時間と競技の流れ(フリー競技)

- A. それぞれの競技者には、競技時間前に5分の準備時間が与えられます。
- B. 競技時間は10分です。競技者自身の合図(「始めます」)により、タイムキーパーがタイムの計測を開始します。
- C. 競技者はプレゼンテーションを行ないながら、2つのサーバーにそれぞれ1回、計2回の個別の抽出を行ないます。2回の抽出を同時に行なうか、順次行なうかは競技者に委ねられます。競技時間中であれば、一から抽出をしなおすことはできませんが、1つのサーバーに連続して2回以上の抽出を行なったり、1回の抽出を2つのサーバーに注ぎ分けたりすることはできません。(カップに直接抽出を行なうことはできません。)
- D. 抽出後のサーバー内にお湯を注ぐことはできません。また量の調整のために、一度抽出したコーヒーの一部を廃棄することもできません。
- E. 使用するサーバーにはそれぞれの抽出量の目安となる線が引いてあります。その中に収まるように抽出をしてください。抽出量が目安の線に足りない場合やオーバーした場合はサーバー1つにつき、20点の減点が課せられます。抽出A、抽出B用に線が引いてあります、逆に抽出した場合は量の規定により減点されます。(両サーバー)
- F. 提供するドリンクは、コーヒー豆と抽出用水以外にいかなる原料も添加しないドリップコーヒーとします、また、温度は60度以上のホットコーヒーに限ります。(規定に反したドリンクを提供した場合は失格となります。)
- G. 競技者は、2つのサーバーに抽出を終えたら、それぞれのサーバーから3杯ずつ、計6杯を提供容器に注ぎ分けてください。3名のジャッジそれぞれに、別々のサーバーから注ぎ分けられた2杯のコーヒーを提供してください。競技者は、ジャッジから見て、それぞれのサーバーから注ぎ分けられたことがはっきりと分かるようにサービスを行なってください。
- H. 競技者は、抽出及び提供容器への注ぎ分けを、マシンテーブルで行なうことも、プレゼンテーションテーブルで行なうこともできます。プレゼンテーションの方法は競技者に委ねられます。
- I. センサリージャッジはコーヒーを提供されたら速やかに審査を始めます。センサリージャッジは2杯のコーヒーの均一性と、プレゼンテーションの内容、サービス技術、コーヒーの味覚を総合的に審査します。(詳しい評価項目についてはスコアシートを参照のこと。)
- J. 競技者は、6杯のコーヒーをすべて提供し、プレゼンテーションを終えた時点で、競技終了の合図(「終わります」)を自身で明確に行なってください。審査員テーブルにカップを置いた後に、プレゼンテーションを継続しても構いません。競技終了の合図の後に行なった説明は、一切評価の対象となりません。
- ~~K. 準備時間中にコーヒー豆を挽くことはできません。競技時間中に行なってください。(項目削除)~~
- L. テクニカルジャッジは、クレンジング、器具機材の適切な使用、安全面の配慮、抽出量が適正か等を審査します。(詳しい評価項目についてはスコアシート参照のこと)
- M. 競技時間が10分を超えた場合、1秒毎に2点の減点となります。
- N. 競技時間10分を60秒以上オーバーした場合は失格となります。

3.0 大会の流れ

- A. 競技スペースには番号が付けられます。
- B. それぞれの競技者には、開始時間と競技スペース番号が割り当てられます。
- C. それぞれの競技者には、下記のとおり競技時間が与えられます。

予選1回戦(ドリップ競技)

リハーサル:17分間 / 競技時間:8分間 / 片付時間:5分間

予選ブロック決勝戦(ドリップ競技)

競技時間:8分間 / 片付時間:5分間

決勝(ドリップ競技)

リハーサル:17分間 / 競技時間:8分間 / 片付時間:5分間

決勝(フリー競技)

準備時間:5分間 / 競技時間:10分間 / 片付時間:5分間

- D. 予選ドリップ競技は4名までを1グループとし、グループごとに同時に競技を行いません。
- E. 決勝ドリップ競技はトーナメントではありません。
- F. フリー競技は1名ずつ行なわれます。
- G. 予選大会のスコアは、決勝大会には持ち越されません。
- H. 予選終了後、決勝進出者14名(最大)がSCAJホームページにて発表されます。
- I. 発表日時はイベントスタッフから案内があります。

3.1 競技エリア概要

3.1.1 ドリップ競技(予選・決勝)

【競技エリア構成】

準備テーブル:

湯沸し器、グラインダー、水、トレイ、ゴミ箱、バケツ、ハケ、粉受け、計量スプーン、パウダーコントロールストッカー

競技テーブル:

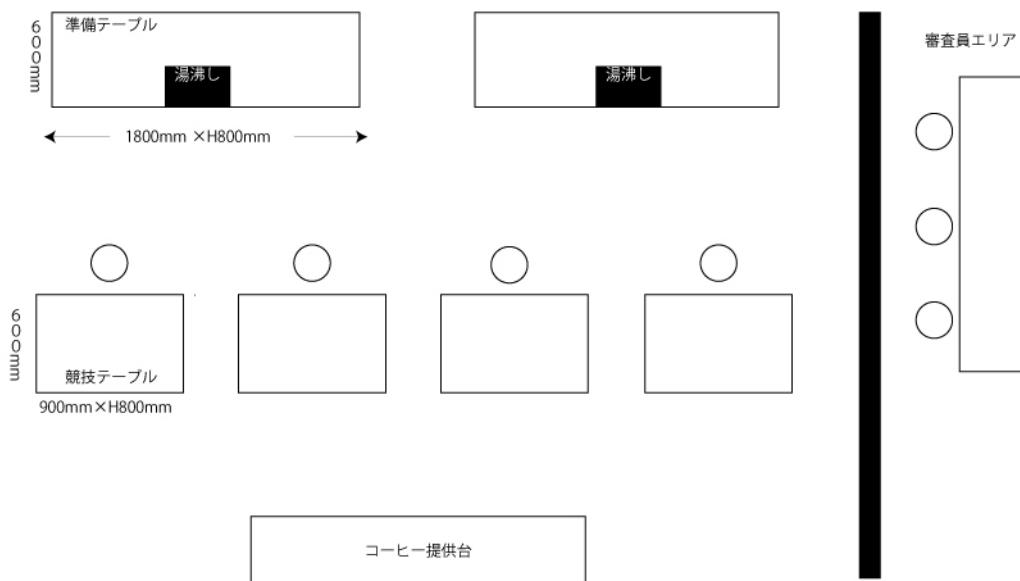
IHヒーター、ドリップ台-任意、サーバー2個、スケール2個、フキン、ペーパータオル、タイマー、温度計

攪拌用スプーン、トレイ(ドリップ用)、トレイ(マドラー温度計用)、トレイ(フィルター置き)

コーヒー提供台(配膳係)、タイマー(大)、タイムキーパー、テクニカルジャッジ、司会

【審査員エリア構成】

衝立、センサリージャッジ、審査員テーブル



1ステージ競技エリア配置図

注意: 会場により、上記のテーブルサイズ及び配置は変更となる場合があります。

3.1.2 フリー競技

【競技エリア構成】

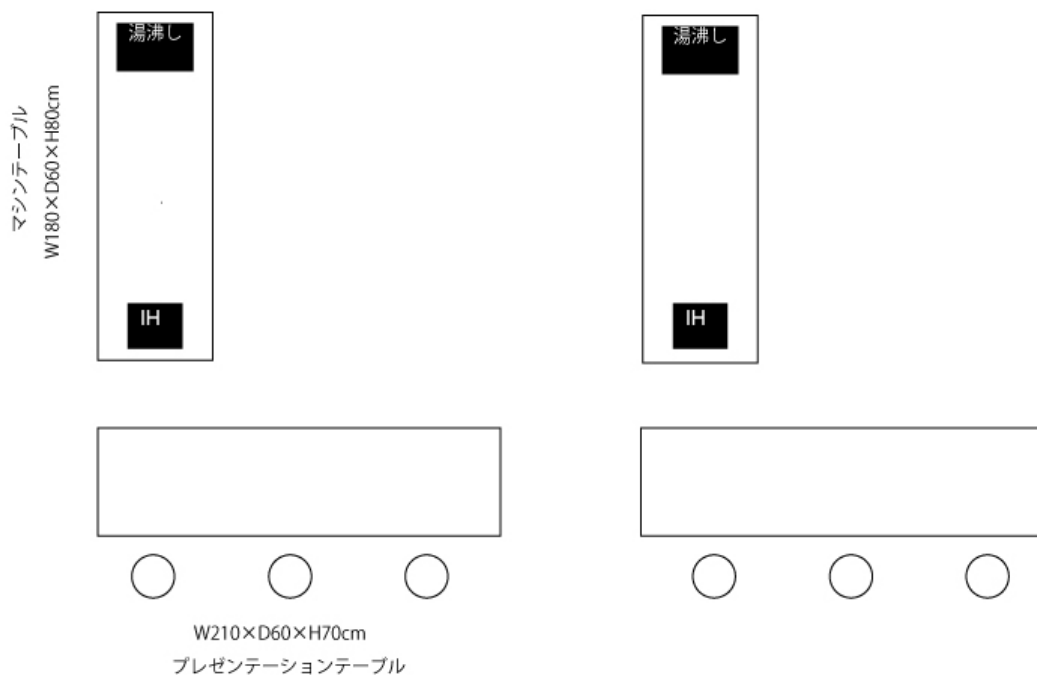
マシンテーブル:

湯沸し器、グラインダー、IHヒーター、水、ハケ、フキン、ペーパータオル、パウダーコントロールストッカー、温度計、タイマー

プレゼンテーションテーブル:

スケール 2 個、サーバー2 個、ドリップ台(任意)

センサリージャッジ、テクニカルジャッジ、ヘッドジャッジ、タイマー、タイムキーパー、司会



4.0 機器、器具、アクセサリ類

競技者は、JHDC より提供される JHDC 公式スポンサーの抽出器具とサーバーを使用します。それ以外の器具は各競技の規定に従います。

4.1 提供される設備品、供給品

4.1.1 グライNDER

競技者は JHDC より提供されるグラインダーを 1 台まで使用することができます。

4.1.2 給湯器と抽出用水(お湯)

JHDC は競技エリアに給湯器を設置し、競技者は給湯器から抽出用水をポットへ注いでください。給湯器の仕様や給湯温度については SCAJ ホームページで確認してください。(会場により給湯器を設置できない場合は、別途沸かしたお湯を用意することがあります。)

4.1.3 IH ヒーター

JHDC は、それぞれの競技ステーションに 1 台の IH ヒーターをあらかじめ設置します。IH ヒーターの設置場所を移動することはできません。また取り外すこともできません

4.1.4 その他の設備品、供給品

それぞれの競技スペースには、次のものが設備されています。

大会提供のドリップ器具一式

準備テーブル・競技テーブル(予選、決勝ドリップ競技)

マシンテーブル・プレゼンテーションテーブル(決勝 W:210cm D:60cm H:70cm)

ドリップ台(任意)、ハケ、フキン、ゴミ箱、デジタルスケール(2 個)、バケツ(お湯捨て用)、ペーパータオル、パウダーコントロールストッカー

温度計、タイマー、トレイ 3 個、攪拌用スプーン、粉受け、計量スプーン

4.2 持参することを推奨する設備品及び供給品(決勝フリー競技)

競技者は自身のプレゼンテーションに必要なものをすべて持ち込んでください(持ち込めないもの以外)。移動時もしくは競技中に破損した場合のために予備品を用意してください。自身で持ち込んだものは、大会期間中、自身で責任を持って管理してください。JHDC ボランティアとイベントスタッフは競技者準備室、競技エリアに残された品目については一切責任を負いません。

5.0 競技者が競技時間の前にすべきこと

5.1 競技者オリエンテーションミーティング

大会が始まる前に競技者オリエンテーションミーティングが行なわれます。すべての競技者がオリエンテーションに参加しなければなりません。その中で JHDC イベントマネージャーが大会の流れについて、アナウンス及び説明を行ないます。また、スケジュールや競技エリアやバックヤードについての実地説明を行ないます。競技者は質問や懸念事項などを JHDC イベントマネージャーに質問することができます。また予選、決勝(ドリップ競技)では、このオリエンテーションにおいて、大会指定コーヒード豆についての詳細説明が行なわれます。予選のオリエンテーションミーティングは当日の朝、決勝は前日か当日の朝に行なわれます。大会が特別に認めた場合を除き、オリエンテーションミーティングを欠席した競技者は失格となります。

5.2 リハーサル(決勝フリー競技)

抽選により競技順を決定します。

競技順に従い、それぞれの競技者に準備 5 分、リハーサル 10 分、片付け 5 分の時間が与えられます。

リハーサルでは大会当日と同じ競技エリアを使用します。

5.3 時間の遵守

少なくとも競技開始の 30 分前には会場にいるようにしてください。自身の競技時間の 15 分前に現場にいない競技者は失格となります。

5.4 サポーター／アシスタント

競技者、運営ボランティア、運営委員以外は、準備時間、競技時間、片付け時間中にステージに上がることはできません。ただし、申告されたサポーター1名は荷物の運搬を手伝うことができます(セットアップを手伝うことはできません)。

5.5 ステージ上に運ぶ備品・供給品

競技者が自身の備品を競技エリアに運ぶ時、運搬用コンテナを使用できます。

競技者は競技時間前に運搬用コンテナに自身の備品を積み込んでください。

予選では運搬用コンテナは用意されません。

5.6 決勝(フリー競技)競技時の音楽

競技者は自身の競技時間にかける音楽 CD を持参することができます。音楽には、冒涇、不敬な言葉が入ってはいけません。持参する CD 及び CD ケースに自身の氏名を明記してください。競技者の責任において、大会前に JHDC イベントマネージャーもしくは音響映像スタッフに自身の CD を渡してください。返却を希望する場合は、競技の後に自身で受け取ってください。返却されなかった CD は大会後に処分されます。CD を持参しない場合、無音で行なうか、大会が提供する音楽で行うかの選択が可能です。

6.0 競技時間

6.1 司会からの紹介

司会者が競技者を紹介します。

決勝(フリー競技)では、競技者はワイヤレスマイクの装着を求められます。競技時間中のみスイッチを入れてライブ状態(放送状態)になります。

6.2 準備時間(決勝フリー競技のみ)

6.2.1 準備時間の開始

競技者には準備時間が与えられます。前の競技者が競技を開始すると、イベントマネージャー、もしくはタイムキーパーの告知により次の競技者の準備時間が始まります。準備時間の目的は、ステーションのセットアップと競技への準備を行なうことです。競技者が準備室から運搬コンテナを使い、自身の競技に使う備品を運びます。指定されたステーションにつき、一つめの運搬用コンテナを競技台に置くと、タイムキーパーが競技者に「用意はいいですか?」と尋ねます。競技者は、「OK」の返事をします。その瞬間より準備時間のタイムキーパーは準備時間を計測するストップウォッチをスタートさせ、同時にタイマーもスタートします。計測開始後は何度でも準備時間内であれば備品を取りに往復できます。準備時間開始前に運搬用コンテナから備品等を出してはいけません。

6.2.2 運搬用コンテナ

競技者は、準備時間中に自身で運搬用コンテナから備品等をおろしてください。タイムキーパーは、準備時間が終わると運搬用コンテナをステージから下げるよう、競技者に指示します。運搬用コンテナは、競技中にはステージ上に置かないようにしてください。(指定の場所に置くこと)

注意: 準備時間が終わった時点で運搬用コンテナの上に品目が残っていたとしても、競技者は運搬用コンテナから積荷をおろすことはできません。競技開始後に運搬用コンテナから積荷をおろすことは可能です。

(「7.3 決勝(フリー競技)でアクセサリを忘れた場合」を参照)

6.2.3 プレゼンテーションテーブル

競技者は、プレゼンテーションテーブルを準備時間中にセットアップすることができます。ジャッジ用のお水のグラスは準備中にジャッジ用のテーブルに用意することができます。なお、競技時間中にプレゼンテーションテーブルをセットしても構いません。

6.2.4 試し抽出

準備時間中、競技者は自由に試し抽出を行なうことができます。

6.2.5 準備時間の終了

競技者は準備時間を超えて準備することはできません。タイムキーパーは準備時間中、競技者へ残り時間を「3分、1分」とアナウンスします。準備時間終了後、タイムキーパーは、「タイム」とコールし、一歩下がるよう指示します。

6.3 競技時間の開始

6.3.1 予選・決勝 ドリップ競技

司会者が各競技者へ競技開始可能かどうかを尋ねます。司会者から競技開始の合図後、競技者は速やかに競技を開始します。同時にタイムキーパーは競技時間を計測する自身のストップウォッチをスタートさせます。公式の競技時間はタイムキーパーの時計で計られます。競技中はタイムキーパーに残り時間を確認することはできません。リハーサルでは残り時間 5分、3分、1分のときにそれぞれアナウンスをします。予選・決勝(ドリップ競技)では残り時間が3分、1分のときにそれぞれアナウンスをします。タイムキーパーは、いかなる時でも指定の時間のアナウンスを決められた時間に行ないます。

6.3.2 決勝 フリー競技

司会者が競技者へ競技が開始可能かどうかを尋ねます。司会者から競技開始の合図後、競技者は手を上げて「始めます」と開始の合図をします。同時にタイムキーパーは競技時間を計測するタイマーと自身のストップウォッチを同時にスタートさせます。公式の競技時間はタイムキーパーの時間で計られますので、競技エリアの表示は目安としてください。競技中、競技者は時間の経過を自身で把握する必要があります。タイマーを見て目安の残り時間を確認することができます。競技者は競技中にタイムキーパーに残り時間を聞くことはできません。タイムキーパーは残り時間が「3分、1分」のときのみアナウンスをします。タイムキーパーは、いかなる時でも指定の時間のアナウンスを決められた時間に行いません。アナウンスは、競技者が話している最中に行なわれる場合もあります。

注意: 何らかの理由によりタイマーが故障してしまった場合でも、競技者は自身の競技時間を止めることができません。タイムキーパーの時間が公式タイムとなりますので、競技者は上記のように時間のアナウンスを受けることになります。

6.3.3 ボランティアスタッフが提供された飲料をさげることについて(決勝フリー競技のみ)

決勝(フリー競技)において、ジャッジの評価が行なわれた後、ヘッドジャッジの指示により、ボランティアスタッフがプレゼンテーションテーブルから飲料をさげます。特別な指示がある場合は、競技時間前に運営ボランティアリーダーに、その指示をよく説明する必要があります。

6.4 タイムオーバーによるペナルティ(減点)

- A. 予選・決勝 ドリフ競技: 8分を超えた場合、20点減点となります。9分を超えた場合失格。
- B. 決勝 フリー競技: 10分を超えた場合、1秒につき2点の減点となります。11分を超えた場合失格。

6.5 コーチについて

準備時間、競技時間を通して外からのコーチングは許されません。コーチングが行なわれた場合は失格となります。

注意: コーチ、サポーター、友人、家族はステージに上がることはできません。

7.0 技術的な問題について

7.1 概要

- A. 競技時間中、競技者は下記について技術的な問題を抱える場合があります。
 - ・電気調理器等(電源、周辺機器等)
 - ・グラインダー
 - ・オーディオ・ビジュアル設備(競技者の音楽やマイク)この場合、競技者は手を上げ「テクニカルタイムアウト」とコールし、タイムキーパーを呼んでください。その際、タイムキーパーはいつテクニカルタイムアウトの宣言がされたのかを記録します。競技者はタイムキーパーがテクニカルタイムアウトの記録をとったかどうかについて確認してください。
- B. JHDC イベントマネージャーが技術的な問題があり容易に解消できると判断した場合、JHDC イベントマネージャーは競技者にその分の適切な時間を決定します。技術担当者がその問題を修正でき次第、競技者の競技時間は再開されます。
- C. もし技術問題がすぐに解決できない場合、JHDC イベントマネージャーは競技再開を待たせるかどうか、もしくは一旦競技を中止し再度割り当てた時間で競技を再開するかどうかを判断します。
- D. 競技を止めなければならない場合、競技者は JHDC イベントマネージャーと競技の上、再度競技時間を調整することになります。
- E. 技術的な問題が競技者のミスによるものと判断された場合、JHDC イベントマネージャーは追加時間を競技者に与えない場合があります。その場合、経過した時間は保証されず、そのまま競技時間が再開されます。
- F. 大会用の設備機器に精通していないことはテクニカルタイムアウトの事由にはなりません。

7.2 妨害行為について

- A. ボランティア、ジャッジ、観客、カメラマンなどが明らかに競技者の障害物となったとき、競技者は追加時間を与えられます。JHDC イベントマネージャーはこのことを俯瞰し、どのくらいの時間を補償するかを決定します。
- B. ジャッジがテーブルセッティングされた備品を誤って触って位置を動かしたり、そのために提供が遅れた場合、ヘッドジャッジはこのことを考慮し、どのくらいの時間を補償するかを決定します。(決勝フリー競技のみ)

7.3 決勝(フリー競技)でアクセサリーを忘れた場合

- A. 競技者が準備時間中に自身の設備機器やアクセサリーを忘れていた場合、ステージ外に忘れ物を取りに出ることができません。しかしこの間、準備時間のタイマーは停止されません。
- B. 競技者が競技中に自身の設備機器やアクセサリーを忘れていた場合、ヘッドジャッジへ忘れ物をステージ外に取りに出ることを申し出てください。しかしこの間、競技時間のタイマーは停止されません。
- C. ボランティアスタッフ、サポーター、チームメンバーや観客によって物を持ってきてもらうことは一切できません。

8.0 片付時間

競技者は競技終了後、作業用ステーションの後片付けを始めてください。競技者が自分自身でグラインダーやほかの電気機器(決勝フリー競技のみ)を持ち込んでいる場合、担当ボランティアスタッフは競技者が作業ステーションからこれらの品目を下げるのを手伝います。競技者は自身で持ち込んだすべての設備及び供給品を下げた後、作業ステーションをきれいに拭いてください。ジャッジは片付時間中の作業については評価しません。

9.0 競技終了後

9.1 競技記録の保管について

9.1.1 JHDC 公式記録について

JHDC 公式記録係がすべての競技記録の集計及び機密保持の責任を負います

9.1.2 同点の場合(予選)

もし2名以上の競技者の得点が同点であった場合、公式記録係は各審査項目の得点を比較します。

- ・審査項目の「均一性」の得点が高い競技者を上位とします。
- ・「均一性」の得点が同点の場合、「クリーンカップ」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「クリーンカップ」の得点が同点の場合、「フレーバー」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「フレーバー」の得点が同点の場合、「ボリューム」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「ボリューム」の得点が同点の場合、「多様性の理解」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「多様性の理解」の得点が同点の場合、「特徴」の点数が高い競技者を上位とします。

9.1.3 同点の場合(決勝)

決勝はドリップ競技とフリー競技の合計点で争われます。

もし2名以上の競技者の得点が同点であった場合、公式記録係はフリー競技の各審査項目の得点を比較します。

- ・審査項目の「均一性・性質」の得点が高い競技者を上位とします。
- ・「均一性・性質」の得点が同点の場合、「均一性・量感」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「均一性・量感」の得点が同点の場合、「クリーンカップ」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「クリーンカップ」の得点が同点の場合、「フレーバー」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「フレーバー」の得点が同点の場合、「ボリューム」の点数が高い競技者を上位とします。
- ・「ボリューム」の得点が同点の場合、「多様性の理解」の点数が高い競技者を上位とします。

9.2 デブリーフィング(報告会)

予選競技者には競技会後、スコアシートを郵送します。予選のデブリーフィングは実施しません。
決勝競技者は、大会後、審査員と共に自身のスコアシートを見直すことができます。

- A. 競技者はスコアシートの元本を持ち帰ることはできません。
- B. JHDC の終了後、各競技者へ郵送によりスコアシート(複写)を送付します。
- C. デブリーフィングは競技者一人につき 10 分間とします。(フリー競技のみ)

10.0 競技者からの異議申し立てと嘆願要請

10.1 競技者に関する問題

10.1.1 異議申し立て

競技者から JHDC 大会中に JHDC に関しての問題が提起され、もしくは異議申し立てがなされる場合、競技者は JHDC イベントマネージャーに連絡してください。JHDC イベントマネージャーはその場で解決できる問題かどうか、SCAJ 事務局に対して書面にて嘆願する必要があるかどうかを検討します。もし JHDC イベントマネージャーがその場で解決できる問題だとの判断した場合、関係各者にその方法が公平公正であるかどうかを確認します。競技者からの問題提起や異議申し立ては、その場で JHDC イベントマネージャーとヘッドジャッジで議論し、決断がなされ、JHDC イベントマネージャーより競技者へその決定事項が伝達されます。

10.1.2 嘆願要請

競技者が不平不満を持ち、その不満がその場で解決できなかつたり、競技者がその場での決定に対して嘆願を望んでいる場合、JHDC イベントマネージャーは競技者へ公式な不平もしくは嘆願として SCAJ 事務局へ書面で提出するように申し入れます。SCAJ 事務局の決定は最終判断となります。SCAJ 事務局への異議申し立て及び嘆願には、下記の事項を必ず明記してください。

- 1) 競技者名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) 競技者からのコメント/解決案
- 6) 関係者
- 7) 競技者の情報(返信用)

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は取り扱いません。競技者は当該紛争が起こってから、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に大会事務局へ E-mail で送付してください。

10.2 スコアシートの見直しに際して提起される審査員/審査に関する問題について

10.2.1 異議申し立て

競技者が、9.2 によるデブリーフィング(またはスコアシートの返送)で受け取ったスコアに対して異議を唱える場合、SCAJ 事務局に E-mail で連絡してください。SCAJ 事務局はその競技者を審査したジャッジと JHDC と協議を行いません。その後、SCAJ 事務局がその判断を競技者へお知らせします。

10.2.2 嘆願

競技者がその決定に同意できない場合は、SCAJ 事務局へ書面による嘆願を行ってください。SCAJ 事務局の決定は最終判断となります。SCAJ 事務局への異議申し立て及び嘆願には下記の事項を必ず明記してください。

- 1) 競技者名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) 競技者からのコメント／解決案
- 6) 関係者
- 7) 競技者の情報(返信用)

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は取り扱いません。競技者はデブリーフィングから、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に大会事務局へ E-mail で送付してください。

11.0 JHDC 公認ジャッジ

- A. 本ルール規約に定める JHDC ジャッジとしての行動規範は、すべての公認ジャッジが一貫し審査ができるように審査条件を定めます。
- B. JHDC 公認ジャッジとは、ジャッジプログラムを受講し、試験に合格した者を言います。
- C. JHDC 公認ジャッジのみがジャパン ハンドドリップ チャンピオンシップ (JHDC) で審査を行なうことができます。

11.1 ジャッジとしての準備

すべての JHDC 公認ジャッジは、審査員プログラム・カリブレーション(調整のためのセッション)に参加しなければいけません。JHDC 公認ジャッジの審査員プログラム・カリブレーションへ参加する前に以下の事項に留意してください。

- A. JHDC 規約について完全に理解し、深い知識を所有していること。
- B. センサリージャッジのスコアシートについて完全に理解し、深い知識を所有していること。
- C. 競技会の流れや競技エリアの設定について完全に理解し、深い知識を所有していること。

11.2 JHDC 公認ジャッジとしての目標と目的

- A. 日本のハンドドリップコーヒーの技術、伝承を支持すること。
- B. スペシャルティコーヒーと、コーヒーの(液体として)カップの素晴らしさを伝えること。
- C. 評価が常に中立、公正公平な立場に立ち、一貫していること。
- D. JHDC の価値を認め、プロフェッショナル性の向上に努めること。
- E. スコアシートを通して競技者の成長の手助けとなること。

12.0 ジャッジの役割

12.1 ヘッドジャッジ(決勝フリー競技)

それぞれの競技者のパフォーマンスにつき 1 名のヘッドジャッジがつきます。ヘッドジャッジは競技者の作業エリアとジャッジ用のプレゼンテーションテーブルの間を行き来します。

- A. ヘッドジャッジは、競技時間中に審査の過程を俯瞰し、また発生した問題や競技に影響のあることを監督・処理します。
- B. ヘッドジャッジは、ジャッジが JHDC 基準に従って専門的に審査するように監督する責務を担います。
- C. ヘッドジャッジは、競技中にプレスのカメラマン、オーディオスタッフやボランティア、他のジャッジなどを含め、いかなる妨害も行なわれないようにする責務を担います。
- D. ヘッドジャッジは、時間オーバーの減点があるかを判断するために総競技時間を記録します。
- E. ヘッドジャッジは、すべてのジャッジが明確にまた正確にすべての項目に得点を記載しているかを確認します。

12.2 センサリージャッジ

それぞれの競技者をテイस्टینگにより評価します。それぞれのセンサリージャッジは自分自身に提供された飲料のみを評価しスコアをつけます。また、決勝(フリー競技)では、センサリージャッジがプレゼンテーションの内容やサービス技術の評価も行ないます。センサリージャッジの評価項目については、JHDC センサリースコアシートを参照してください。

13.0 評価項目

13.1 予選・決勝(ドリップ競技)の味覚評価

テイस्टینگを基本とした審査で行なわれます。競技者は、提供されたコーヒー豆の香り、味覚バランス、濃度バランス等を考慮し最高のポテンシャルを引き出す抽出に励んでください。

13.2 決勝(フリー競技)のドリップコーヒーの評価、及びサービス力全般評価

競技者は、香り、良質な酸味とコーヒー本来の甘さの調和、味覚バランス、濃度バランスが提供されたコーヒーのポテンシャルをうまく引き出すように抽出に励んでください。また、決勝(フリー競技)では、使用した豆、自身のドリップコーヒーを提供しようと思った理由などについてジャッジに説明してください。

13.3 決勝(フリー競技)の飲料のプレゼンテーション

カップ、グラス、アクセサリといった視覚的なプレゼンテーションについても得点が与えられます。ここでは、カップ&ソーサーの清潔さ(カップの横にこぼれたり垂れたりしていないか)、飲料の一貫性、創造性やプレゼンの特性といった要素も評価対象に含まれます。発話以外(視覚、触覚、嗅覚等)によるプレゼンテーションでは、説明を加えてください。

13.4 決勝(フリー競技)の総合的な印象

ここでは、ハンドドリップのスペシャリストとしての技能、飲料の味覚評価、そして個人としてのプレゼンテーション、飲料としてのプレゼンテーション、競技者の熱意といったジャッジによる総合的な印象により得点が得られます。競技者は、審査員をもてなすという意識を忘れず、審査員の飲用体験が素晴らしいものになるよう心掛けてください。

13.5 評価基準(尺度)

技術的な評価基準

Yes/No 項目

予選・決勝(ドリッパ競技)

・コーヒー抽出量が規定量に満たないかオーバーした場合:No=マイナス 20 点

センサリー評価基準

7 点項目(0-7 点、0.5 点きざみ)

・許容できない=0、普通=1~3、良い=4、とても良い=5、素晴らしい=6、驚くほど・並はずれて良い=7

10 点項目(0-10 点、0.5 点きざみ)

・許容できない=0、許容できる=1~3、普通=4~6、良い=7、とても良い=8、素晴らしい=9、驚くほど・並はずれて良い=10

14.0 審査前のジャッジの禁止行為

- A. ジャッジは大会期間中選手と会話することを差し控えること。他の競技者や出席者が個人的なコーチングをしているとみなします。
- B. センサリージャッジは審査前に飲食をする場合、刺激の少ないもの、味覚の控えめなものを食すように心がけること。
- C. 審査前には喫煙をしないこと。
- D. 香りのあるデオドラント(防臭液)をつけないこと。
- E. 香水、コロソナや香りのあるローションなどをつけないこと。

14.1 競技大会中のジャッジの振る舞い

- A. ジャッジは、公平公正で誠実であること。
- B. ジャッジは、常に競技者に対して肯定的で丁寧であること。
- C. ジャッジは、競技者の言うことのみを聞き競技者に注目すること。
- D. ヘッドジャッジは、ジャッジの礼儀作法に関して正す権限を持ちます。

14.2 味覚審査時

観客、ボランティア、運営管理者のみならず競技者は、味覚審査時にジャッジは注目されているということを忘れないください。どんなに些細な動きや表情の変化も肯定的に解釈されたり、否定的に解釈されたりします。

14.3 センサリージャッジに望むこと

- A. 競技者紹介のときには笑顔で歓迎すること。
- B. カップが提供されたらできるだけ評価を早く始めること。
- C. ジャッジは、競技者に対して心理的な力、強い影響力があるということと忘れないこと。
- D. 味覚審査中には、他のジャッジと目を合わせたり、表情に表したりしないこと。アイコンタクト中には表情をつくってしまう可能性があるということを忘れずにおくこと。
- E. 競技時間中には他のジャッジとコミュニケーションをとらないこと。
- F. ステージ上で他のセンサリージャッジと評価を共有しないこと。
- G. 味覚評価中は笑わないこと。
- H. 競技者や観客に否定的に解釈される行為をとらないこと。
- I. 自身に提供された飲料のテイastingをヘッドジャッジ以外の誰かに許してはいけないこと。
- J. ヘッドジャッジに対する議論、確認、質問は競技時間終了後バックヤードで行なうこと。

14.4 スコアシート記入の際の注意事項

ジャッジは以下の事項に注意してください。

- A. ジャッジのフルネームがスコアシートの上部に明記されていること。
- B. スコアシートにはわかりやすい言葉遣いで明確に記入すること。
- C. ジャッジが判断上の誤りがあったり、スコアの変更をするときは、もとの数字にバツをつけるか、削除して正しいスコアとイニシャルを明記すること。
- D. ヘッドジャッジにスコアシートを渡す際にすべての項目を評価し、得点を記入してあるかを確認すること。

15.0 JHDC ジャッジによる不誠実な姿勢について

15.1 概要

審査中に JHDC スタッフにより、JHDC ジャッジの不誠実な行動が発覚、またはその可能性が予想されるような好ましくない事態が生じた場合、以下の事項が適用されます。

- A. JHDC イベントマネージャーは、疑惑のある評価に関連するすべての競技者のスコアを公認記録係から提出するように依頼します。
- B. JHDC イベントマネージャーは、関係のある JHDC ジャッジを呼び、JHDC 運営責任者とのミーティングによりこの状態を見極めます。
- C. もし、その不誠実な姿勢が深刻な場合には、JHDC 運営責任者は当該 JHDC ジャッジを将来にわたり JHDC 認可の大会で審査できないようにする処分を裁定する権限を持ちます。

15.2 嘆願要請

もし JHDC ジャッジがその決定に対して同意しなかった場合、嘆願として SCAJ 事務局へ書面にて提出できます。SCAJ 事務局の決定は最終判断となります。SCAJ 事務局への嘆願には下記の事項を必ず明記してください。

- 1) 氏名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) コメント／解決案
- 6) 関係者
- 7) 返信用情報

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は取り扱いません。ジャッジはデブリーフィングの後、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に大会事務局へ E-mail で送付してください。

16.0 連絡先

16.1 SCAJ 事務局

協会ホームページ <http://www.scaj.org/>

16.2 競技会事務局

E-mail: competition@scajconference.jp

TEL: 03-3831-2605

FAX: 03-5807-3019